

AICHI
MEDICAL
UNIVERSITY

Graduate
School
of Nursing

2021



愛知医科大学大学院

看護学研究科

修士課程

愛知医科大学大学院 看護学研究科(修士課程)について

愛知医科大学大学院看護学研究科は、高度専門職業人にふさわしい看護実践者として、これからの看護研究・教育・管理に貢献できる人材を育成するために、2004年4月に開設しました。

その後、2007年度に感染看護学領域において高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースを開設し、2015年10月には高度実践看護師(診療看護師[NP])コースにおいて、特定行為研修制度の研修機関として厚生労働省から指定(38行為21区分)を受けるなど着実に発展を遂げ、更なる看護学の発展に寄与する人材の育成を行っています。

研究科長あいさつ



Message from the Dean

研究科長

坂本 真理子

Sakamoto Mariko

愛知医科大学大学院看護学研究科は、2004年の開設から16年が経過しました。これまで送り出した132名の修了生たちは、本研究科で培った知識や技術をもって全国各地の保健医療機関や教育機関などで活躍しています。

近年の大きく変化する社会情勢のもと、保健・医療・福祉のしくみも変わろうとしています。こうした変化の中で、自ずと看護職の役割や地域社会での活動場所も拡大し、多様化してきています。多くの看護職が今まさに、今日的な課題を実感しながら、悩み、実践に取り組んでおられると思います。

看護教育の高等化が急速に進み、実践家である看護職が大学院で学べる機会が増えてきました。本研究科では、実践家である皆さんが日常の看護実践で気になっている現象を紐解くことから始めます。自らの体験を語り、自分自身の考えを整理し、議論しあうプロセスを通じて、自分の研究テーマを精錬させ、新しい知を創造し、発信できるように研究を進めていきます。このプロセスは、経験知であった看護を可視化し、共有の財産である理論知としていくプロセスでもあります。

本研究科では夜間開講や長期履修制度等、社会人が学びやすい教育環境を整えています。自らの可能性に挑戦し、共によりよい社会の創造に向けた看護学の追求に共に取り組んでみませんか。皆様のご入学を心からお待ちしております。

教育理念

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点を加味した看護学を教授し、卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度実践看護者を育成するとともに、研究・教育を通して看護学の発展に寄与する。

教育目標

- 1 高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成する。
- 2 看護の質向上に寄与する研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成する。
- 3 国際的視野を持って、看護・看護学を探究しつづける人材を育成する。
- 4 看護学の学問的発展に寄与できる研究者・教育者を育成する。



学 位

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点に基づく卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を身に付け、高度専門職者として優れた能力ないし教育・研究活動に貢献できる能力を修得した者に、修士(看護学)の学位を授与する。

募集人員

15名

担当教員研究内容一覧

教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	看護管理学	修士論文
母子看護学	母性看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
精神・在宅・地域看護学	精神看護学	
	在宅看護学	
高度実践看護学	感染看護学	修士論文
		高度実践看護師(専門看護師[CNS])
	臨床実践看護学	修士論文
		高度実践看護師(診療看護師[NP])

担当教員研究内容一覧



看護管理学領域 **山中 真** 准教授

- 転倒外傷予防
- 看護師の実践技術の量的評価



母性看護学領域 **山本 弘江** 准教授

- 乳児をもつ夫婦の産後うつの実態と家族を支える地域連携モデルの開発
- 夫婦に対する産後うつ病予防に関する看護介入
- 親の育児ストレスに関する研究
- フィンランド「ネウボラ」の総合健診からみた家族への支援の検討



慢性看護学領域 **高橋 佳子** 教授

- 長期療養者のセルフマネジメント・スキル獲得への支援に関する研究
- セルフマネジメントに必要な行動変容に関する研究
- ICTを活用した遠隔看護に関する研究



精神看護学領域 **心光 世津子** 教授

- 精神科病棟看護における自己決定支援に関する学際的研究
- 精神障害からの回復・リハビリテーションに関する研究
- セルフヘルプ・グループやピアサポートに関する研究
- 精神看護学教育に関する研究



在宅看護学領域 **佐々木 裕子** 准教授

- 在宅ターミナルケアに関する研究
- 小児在宅ケアに関する研究
- 地域・在宅ケアで取り組む災害対策と要配慮者支援に関する研究
- 在宅看護教育に関する研究



地域看護学領域/
在宅看護学領域 **坂本 真理子** 教授

- コミュニティ・ヘルス・ワーカーの在日外国人支援における適応について
- 多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブックの開発
- 保健師の歴史に関する研究



地域看護学領域 **若杉 里実** 教授

- 地域看護活動に関する研究
- 保健師の人材育成に関する研究



感染看護学領域 **佐藤 ゆか** 教授

- 感染防止教育に関する研究
- 感染管理、感染防止ケア、感染症患者の看護に関する研究
- 感染防止における地域連携に関する研究



臨床実践看護学領域 **阿部 恵子** 教授

- 学習者のパーソナリティと感情管理に関する研究
- 多職種連携教育に関する研究
- SP参加型/シミュレーション教育に関する研究



臨床実践看護学領域 **泉 雅之** 教授

- 神経疾患の内分秘学的検討、認知症の臨床研究、脳卒中の臨床研究

環 境

昼夜開講制・長期履修制度

医療等の現場で活躍している看護師・保健師の方々が退職や休職することなく学べるよう、配慮しています。

また、2015年度入学生からは職業を有している等の事情により、標準修業年限での履修が困難な学生を対象として、修業年限を超えて計画的に履修し、修了することができる「長期履修制度」を導入し、社会人の学びやすさを支援する体制を取っています。



社会人比率

2020年度入学者	12名中12名(100%) [長期履修制度を利用する学生:1名]
2019年度入学者	14名中14名(100%) [長期履修制度を利用する学生:7名]
2018年度入学者	15名中15名(100%) [長期履修制度を利用する学生:5名]
2017年度入学者	12名中12名(100%) [長期履修制度を利用する学生:3名]

研究指導体制

本研究科における指導体制は、少人数で個別的な指導を行うことを旨としています。このため、初学者であっても確実に研究のプロセスを学習しつつ、論文を作成できる体制を取っています。



研究環境

● 院生用研究室

大学院生には、研究活動等で利用するための研究室を整備しています。24時間利用可能で、パソコン、机、保管庫・ロッカーを設置しています。

● 総合学術情報センター(図書館部門)

医学・看護学及び関連分野の学術情報を収集・管理し、教育・研究・診療を支援する専門図書館があります。図書約10万冊、視聴覚資料約1,500点、学術雑誌約4,000タイトルを所蔵しており、学内外を問わずどこからでも所蔵状況を確認することができます。利用にあたっては、医療情報の専門家である図書館員が検索のコツや利用上の相談にも気軽に応じます。平日は22時まで利用できることに加え、毎週土曜日及び一部日曜日も開館しており、利便性の向上に努めています。

● 総合学術情報センター(情報基盤部門)

先進的な設備や最新のICT技術を導入し、学習支援環境の整備に積極的に力を注いでいます。課題解決(表分析、レポート作成等)などで、利用時間内であれば自由にパソコンが利用でき、操作支援やトラブルの対応には専門スタッフがサポートします。



特別講義

看護の展望や看護の探求心,知的好奇心を育成するとともに,看護職者としての意識の改革,看護に対する関心への動機付けを狙いとして,年に数回開講しています。



修了生へのサポート

本研究科では,修了生に対してのフォローアップ,キャリアサポートを目的とし『修了生連絡会』を設置しています。『修了生連絡会』では専用のメーリングリストを作成し,本研究科で開催するイベントの情報を発信したり,研究科担当教員及び修了生相互の情報交換の場として運用されています。

国内外の大学との交流

● 国際性

看護学部では,ケース・ウェスタン・リザーブ大学(米国),サンディエゴ大学(米国),オウル大学(フィンランド)及びマハサラカム大学(タイ王国)と協定締結を行っており,協定締結大学から教員を招聘し,講義・演習を行っています。

● 国内における交流

感染看護学領域では,他の看護系大学大学院との協力などによる講義・演習を行っています。

科目等履修生制度

科目等履修制度は,本研究科において開講している授業科目の「単位修得」を目的として入学する制度です。本研究科において履修した科目は試験等で総合的に判断し,単位を認定します。認定された単位は,10単位を限度として,入学後に単位を認定することができます。

職業実践力育成プログラム(BP)

「職業実践力育成プログラム」(BP)とは,大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として,大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものです。

本研究科高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは平成30年度に,高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースは令和元年度に認定されました。



教育訓練給付金(専門実践教育訓練給付金)

高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース及び高度実践看護師(診療看護師[NP])コースは,厚生労働大臣より,教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定を受けています。一定の条件を満たせば,2年間で最大**112万円**の給付が受けられます。

※専門実践教育訓練給付金の制度等の詳細につきましては,ハローワークや厚生労働省のWebページも併せて必ずご確認ください。

愛知医科大学病院 診療看護師
クリティカルケア看護学領域
高度実践看護師(診療看護師[NP])コース

河村 佑太さん

2020年3月修了



医師の考え方を学ぶことで、 臨床に役立つ

愛知医科大学病院で勤務してから診療看護師と一緒に働き始めました。医学的な知識と看護学の知識・経験を持っている診療看護師の臨床実践はとても興味深く、自分の知識の向上と患者により良いケアを提供することができたらと思い、診療看護師コースに進学しました。

診療看護師は、医師と同様の知識が必要であるため、より専門的な生理学等の講義を受講してきました。また、看護師とは異なる医師の考え方を学ぶ臨床推論は、とても有意義で臨床で実践していく上でとても勉強になりました。

自分が、看護師の時には考えていなかった所までを、しっかりとアセスメントし根拠を持って看護と医療を実践していきたいと思っています。

宮川ホームケアクリニック 診療看護師
クリティカルケア看護学領域
高度実践看護師(診療看護師[NP])コース

吉家 直子さん

2019年3月修了



診療看護師(NP)として 在宅医療の発展に貢献していきたい

訪問看護師として働く中で、経験値でしか判断できない自分に疑問を感じていました。私がきちんとした教育機関で学び直したいと決心したのは、ある在宅医師との出会いでした。医師は状態だけでなくアセスメントと必要な治療を求めましたが、十分な答えを返すことができない私は大学院への進学を決意しました。

大学院では高度な医学と技術を学び、看護研究では常に疑問を持ち言語化することの大切さを学びました。

現在私はその在宅医師の指導を受け、大学院で得た力を実践しています。今後は診療看護師(NP)として在宅医療の発展に貢献していきます。

愛知医科大学看護学部 教員
老年看護学領域 修士論文コース

志水 己幸さん

2019年3月修了



看護を学ぶ学生に、 看護の魅力を伝えていきたい

元々、看護基礎教育に興味があり、実習指導員として学生と関わる中で、老年看護学の奥深さを感じ、学びを深めたいと思い大学院進学を決めました。

在学中の講義では、同級生の豊富な経験や多彩な考え方に触れる機会に恵まれ、自分の未熟さ、看護の幅広さを改めて感じました。特に、「現象学的看護学」で、今まで何気なく行ってきた実践を、現象として捉えることが私にとってはとても興味深いものでした。そして、研究を進めながら学びを深めていく過程で、自分自身の癖や弱みを知ることができました。

今後は、大学院での学びや経験を活かして看護研究を続け、看護を学ぶ学生一人ひとりの思いや考えを大切に、看護の魅力を伝えていきたいと思っています。

瀬戸市役所 保健師
地域看護学領域 修士論文コース

大島 亜友美さん

2017年3月修了



自分の研究に意見を もらえるのは学生の特権

私は、保健師としての専門性を模索し入学しました。

研究計画が未熟ゆえ、ご指摘を受け落ち込むこともありましたが、「自分の研究に意見をもらえるのは学生の特権。」という先生の助言や、同じ領域の先輩・後輩の支えにより、満足いく研究ができました。また、「思いを語れる」わりに「文章が書けない」という自分の弱点に向き合ったことで、自分の考えを「見える化」する習慣が身につくと感じます。

修士の学位を取得するまでのプロセスこそが重要で、今の自分の支えになっています。年齢・性別問わず、挑戦することをお勧めします。

愛知医科大学病院 看護部副部長
看護管理学領域 修士論文コース

岡本 悦子さん

2017年3月修了



看護管理者としての 視野を広げるために

大学院への進学は看護部から医療安全管理室への異動が契機でした。新たな専門分野へのチャレンジ、組織横断的な活動と評価をしていくためにはさらなる学びと環境の変化が必要だと感じたからです。

大学院では「看護管理学」を専攻し看護教育、安全管理、研究論文作成など幅広い視点で自律的に学習することができました。お世話になった教員の皆様や同期の院生と過ごした時間は苦しくも楽しい貴重な財産となりました。

現在私は、看護部管理室で大学院での学びを活かし、社会情勢の変化に対応し安全な医療・看護を提供するため、幅広い視野で看護管理実践ができるよう日々邁進しています。

刈谷豊田総合病院 感染症看護専門看護師(CNS)
感染看護学領域
高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース

佐藤 浩二さん

2019年3月修了



学びを現場で 実践することでさらに成長

私は、認定看護師として日々の業務をしていましたが、自身の知識不足を感じるようになったため、大学院への進学を決めました。

大学院では、専門的知識を深めるだけでなく、看護の基礎を学び直す機会となり、看護に対する視野が広がったと実感できました。勤務しながら通学できたため、学びをすぐに実践できたことも成長につながったと感じています。看護研究は、難関でしたが、先生方の丁寧なご指導のもと論文作成できました。辛い事もありましたが、大学院での学びや共に過ごした仲間は、私の財産となっています。

修士論文コース

各分野の第一人者を講師として招き、幅広く専門的な看護学を教授

修士論文コースは、8つの多彩な専攻領域を設置し、看護実践者の研究能力の向上と看護教育・管理に貢献できる看護職者の質的向上をめざした教育を行っています。働きながら学修を続けることができるよう、平日の夜間や土曜日などに開講しています。

カリキュラム

授業科目	配当年次	単位数		修得すべき単位数
		必修	選択	
共通科目	現象学的看護学	1	2	当該指導教員と相談して選択(計14単位以上) 必修以外から
	看護理論	1	2	
	看護倫理	1	2	
	看護教育論	1	2	
	看護管理論	1	2	
	看護研究方法論I	1	2	
	看護研究方法論II	1	2	
	コンサルテーション論	1	2	
	看護政策論	2	2	
	環境保健学	1	2	
	国際看護学	2	2	
	英語文献購読	1	2	
	看護教育実践論	1	2	

授業科目	配当年次	単位数		修得すべき単位数
		必修	選択	
専門科目	看護管理学特論I	1	2	(2) 専攻領域の演習科目4単位 (1) 専攻領域の講義科目4単位
	看護管理学特論II	2	2	
	看護管理学演習	1	4	
	母性看護学特論I	1	2	
	母性看護学特論II	2	2	
	母性看護学演習	1	4	
	慢性看護学特論I	1	2	
	慢性看護学特論II	1	2	
	慢性看護学演習	1	4	
	精神看護学特論I	1	2	
	精神看護学特論II	2	2	
	精神看護学演習	1	4	
	在宅看護学特論I	1	2	
	在宅看護学特論II	2	2	
	在宅看護学演習	1	4	
	地域看護学特論I	1	2	
	地域看護学特論II	2	2	
	地域看護学演習	1	4	
	感染看護学特論I	1	2	
	感染看護学特論II	1	2	
感染看護学演習I	1	4		
特別研究(修士論文)	2	8	(3) 特別研究8単位 (計16単位以上)	

在宅看護学領域
修士論文コース

水野 竜斗さん

第2学年

Senior Message

研究で得た学びを臨床で 発揮できることを目指したい



訪問看護師として加齢や慢性疾患を抱えながら在宅で過ごす利用者様と接する中でさまざまな看護の視点があると感じながらも、それを具体的に文章や言語化することの難しさを実感していました。また臨地実習指導者として学生と関わる中で、学生のフレッシュな考えにエビデンスをもって応えたいという気持ちも強くなり、大学院への進学を決意しました。

大学院では多くの文献に触れ、看護モデルを深く理解する事の重要性に改めて気づかされています。研究では、『新人看護師』『病院と在宅の連携』について焦点を当てて取り組めたらと考えています。

臨床での疑問を研究で明らかにし、研究で得た学びを臨床で発揮できることを目指していきたいです。

高度実践看護師(専門看護師[CNS])コース

感染看護学分野の高度実践看護師を育成

感染看護学領域は、専門看護師教育機関として認定を受けており、修了者は公益社団法人日本看護協会が実施する専門看護師認定審査(感染症看護)の受験資格が得られます。

教育方針

高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースは、対象のクオリティ・オブ・ライフの向上を目的として、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使し、個人・家族・集団・地域に対して、卓越した感染予防ケアと感染管理を実践する高度実践看護師の育成を目指します。

課題研究では、医療関連施設における感染症患者及び易感染患者のケア、感染症に伴う倫理的問題への介入、施設及び地域における感染管理活動、災害時の感染防止、感染症集団発生時の疫学調査と感染拡大防止対策などについて探求し、感染看護学の発展と看護の質向上に寄与しうる研究論文の作成を目指します。



カリキュラム

合計:46単位以上

授業科目	単位数	修得すべき単位数
看護理論	2	8単位以上
看護倫理	2	
看護教育論	2	
看護管理論	2	
看護研究方法論I	2	
コンサルテーション論	2	
看護政策論	2	
フィジカルアセスメント	2	6単位
臨床薬理	2	
病態生理学	2	

授業科目	単位数	修得すべき単位数
感染看護学特論I	2	18単位
感染看護学特論II	2	
感染看護学特論III	2	
感染看護学特論IV	2	
感染看護学特論V	2	
感染看護学演習I	4	10単位
感染看護学演習II	4	
感染看護学実習I	3	
感染看護学実習II	4	4単位
感染看護学実習III	3	
課題研究	4	

感染看護学領域 高度実践看護師
(専門看護師[CNS])コース

木下光香さん

第2学年

Senior Message

専門看護師6つの役割
(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)を
果たすために



私は病院でリンクナースをしていた時に、リンクナースの役割や病院の感染管理に興味を持ちました。さらに、数年前から科目等履修生として大学院で学習し、そこでの志の高い大学院生との出会いや先生方の熱心な指導を受け、さらに学びを深めたいと思い大学院に進学しました。

大学院では専門看護師の6つの役割に必要な多くの科目を学習し、実習では学習した事を現場でどのように活用するかを学んでいます。授業や実習、研究を進める中で、考え方を柔軟にし、新しい知識を吸収し、表現する事の難しさを感じています。しかし、先生方の指導を受け、同じ目標を持つ仲間と共に日々成長したいと思います。

今後は大学院での経験を臨床の現場に戻り活用できるようにしていきたいです。

高度実践看護師(診療看護師[NP])コース

診療看護師(NP)とは

病気を診断し治療を行うナース・プラクティショナーという看護師が海外では活躍しています。この役割の一部を担う看護師が診療看護師(NP)です。診療看護師(NP)とは、「医師や他の医療従事者と連携・協同し、対象とする個々の患者の診療及び療養生活上のニーズを包括的に的確に評価し、倫理的かつ科学的な根拠に基づき、必要とされる絶対的医行為を除く診療を自律して、効果的、効率的、タイムリーに提供し、患者及び患者家族のQOLの向上に係る看護師」です。愛知医科大学大学院看護学研究科では、日本NP教育大学院協議会の教育カリキュラムに基づき、診療看護師の養成を行っています。

診療看護師(NP)の特徴とは

診療看護師(NP)は、看護学を基盤にしつつ、診療と治療のプロセスを医師と協働しながら実践できる看護師です。特徴的な違いとして、これまでの看護学の知識・技術に加えて、医学的な視点を学ぶことによって、病気の診断技術と治療管理技術を取得します。加えて、厚生労働省「看護師の特定行為に係る研修制度」を通じて、38行為21区分の特定行為研修を行っています。



臨床実践看護学領域
高度実践看護師
(診療看護師[NP])コース

野澤 多恵さん

第1学年

Senior Message

医師の治療・知識を学ぶことで、
より深く「ひと」に
寄り添うことができる



私は看護師として10年間、急性期病棟や診療所での勤務ののち大学院に入学しました。看護とは「ひとのいのちを輝かせること」だと考えています。「いのち」とは生命活動に必要な臓器が動いているということだけではなく、物語としての人生がよりその人らしく輝くことだと思います。診断のプロセスや治療管理技術、医師との共通言語を学ぶことで、より深く「ひと」に寄り添うことができるのではと考え入学を決意しました。

入学し、講義を受ける中で、臨床で目にした数々の疾患に対し、その病態を生体のメカニズムと組み合わせることでより理解が深まっていくことを感じています。知識や技術を身につけて、その学びを臨床に応用できるように頑張りたいと思います。

修了後は医療や看護と「ひと」をつなぐ役割を担えればと思っています。

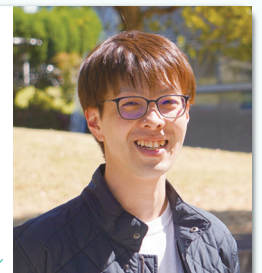
臨床実践看護学領域
高度実践看護師
(診療看護師[NP])コース

広田 遼一さん

第2学年

Senior Message

同期や先輩・修了生との繋がりが強く、
経験をシェアすることで
看護観を深める機会が多くある



私はER、ICUを5年経験して診療看護師[NP]コースに入学しました。「臨床を離れる事で救えるはずの患者さんを救えない事があるのではないか。」などの不安もありましたが、職場の頼もしい仲間たちに背中を預けて進学に踏み切りました。

本コースの授業は医学・看護理論はもちろん、すぐに臨床に応用ができるものもあり、今まで臨床で働いていて抱えていたモヤモヤが少しずつ晴れている事を実感しています。また、同期や先輩・修了生との繋がりが強く、各々の経験をシェアすることで看護観を深める機会が多くあります。そして教員や事務の方々の熱心なフォロー体制やICTを取り入れた教育環境には感動させられます。

臨床にいた頃には悔しい思いを多々経験しました。診療看護師になればできる事を選択肢も多くなり、より良いケアを提供できるようになります。しかしその分の能力と責任が求められます。その責任を果たせるだけの知識と能力をしっかり身につけるように頑張ります。

高度実践看護師(診療看護師[NP])コース

本学の特徴

● 2コース同時開講

本学では、クリティカルケアコースとプライマリケアコースの2コースを開設しており、日本NP教育大学院協議会主催・NP資格認定試験、クリティカル又はプライマリケア(成人・老年)コースの受験資格を得ることができます。

● 教育利点

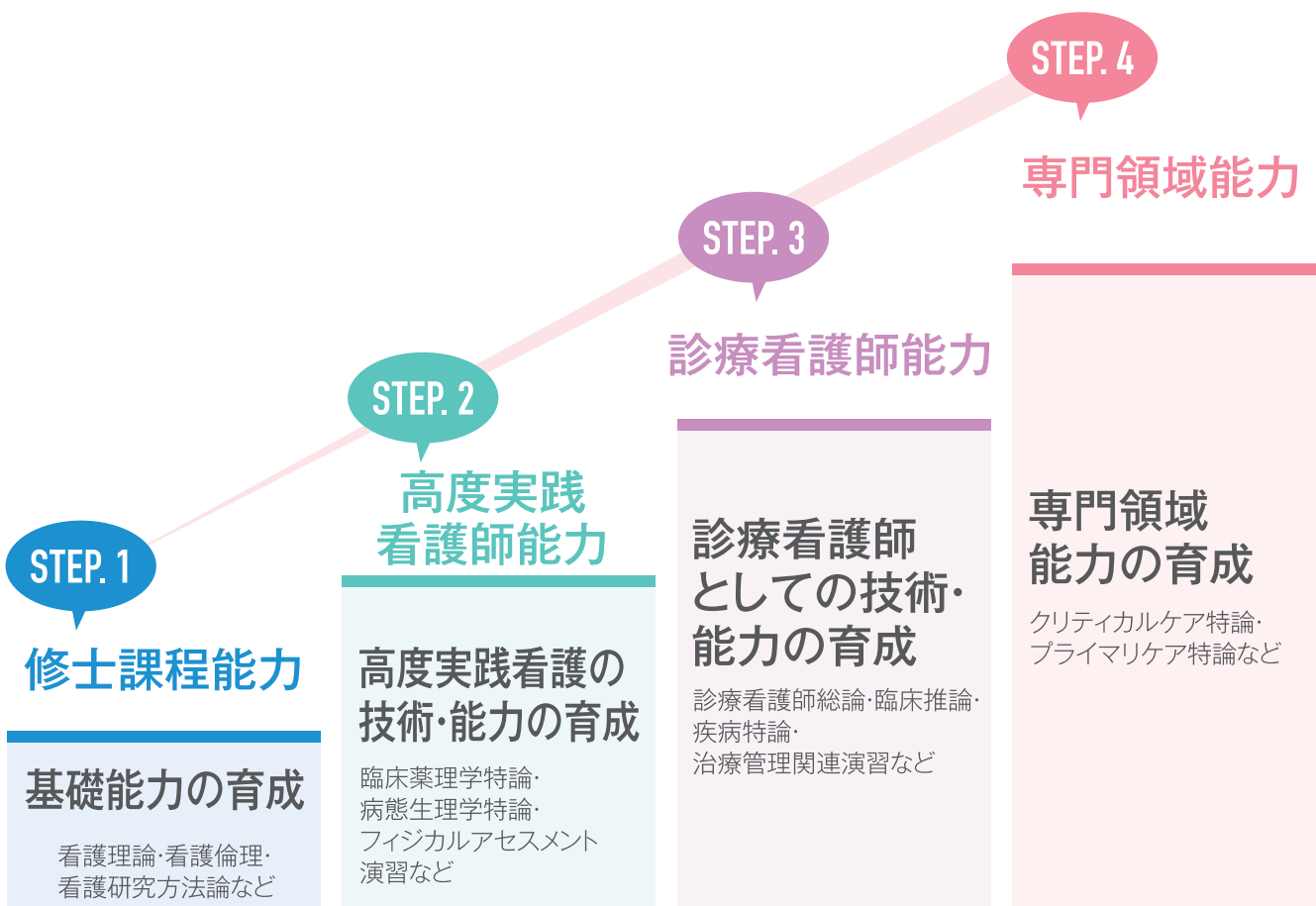
医学部が併設しているメリットを生かし、薬理学、生理学などの基礎医学に関する科目は、医学部と同様の教育を受けることができます。また、臨床経験豊富な医師や先輩診療看護師(NP)の講義によって、臨床実践能力の向上を目指すことができます。加えて、診療看護師(NP)資格をもつ看護教員が在籍しており、看護の視点を持って学ぶことができます。

● 合格率100%

本コースは、平成22年度に日本NP教育大学院協議会の診療看護師(NP)養成教育課程の認定を受け、現時点までの修了生の認定試験合格率は100%です。

カリキュラムの特徴

諸外国の高度実践看護師養成教育モデルを参考に、段階的に、系統化された教育を積むことで看護学修士としての看護の視点を伸ばしつつ、診療看護師として必要な知識・技術を修得することが可能です。加えて、クリティカルケアコースとプライマリケアコースの両コース開設によって、より専門性を深めた教育を自身のキャリアプランに沿って学ぶことが出来ます。



充実した学習・実習環境

診療看護師[NP]コースでは、専用の演習室を備えています。臨床推論ソフト、気管挿管、動脈穿刺、縫合シミュレーターや超音波診断装置も常備されています。シミュレーションセンターでは、高機能シミュレーターを用いて、シミュレーションを行っています。

学習は、ICTを活用した学習支援システムにより、自宅でも文献検索やレポートの提出ができ、社会人が学習しやすい支援を行っています。大学院生には、子育てをしながら進学する方も多くなっています。

実習は、愛知医科大学病院だけでなく、地域の中核病院、在宅診療専門クリニック、山間部や離島などのへき地の診療所などでも実習を行い、高度先進医療から地域医療まで幅広い対応が可能な診療看護師(NP)の育成を目的としています。



カリキュラム

	授業科目	単位数	修得すべき単位数
共通科目	看護理論	2	計14単位以上
	看護倫理	2	
	看護研究方法論I	2	
	英語文献講読	2	
	チーム医療特論	1	
	医療安全・看護管理特論	1	
	保健医療福祉システム特論	2	
	看護教育論, 看護管理論, コンサルテーション論, 看護政策論(選択)	2	
専門科目	診療看護師総論	1	計54単位
	臨床薬理学特論	3	
	病態生理学特論	5	
	疾病特論	4	
	臨床推論	3	
	フィジカルアセスメント演習	2	
	呼吸器・循環器治療のための実践演習	5	
	ドレーン管理のための実践演習	2	
	疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理	3	
	疾病と治療 薬物治療I	2	
	疾病と治療 薬物治療II	3	
	人体構造演習	1	
	診療看護実習・スキルアップ実習	20	
選択科目	クリティカルケア特論	2	計2単位以上
	プライマリケア特論	2	
課題研究	課題研究	4	計4単位

※診療看護師[NP]コースの専門科目における講義および実習は、昼間に実施されます。

合計:74単位



ACCESS GUIDE



■幹線道路から

- ①東名・名神高速道路・名古屋インターから車で約15分、長久手インターから車で約10分
- ②名古屋第二環状自動車道・本郷インターから車で約15分
- ③東海環状自動車道・せと赤津インターから車で約30分

■公共交通機関

名古屋駅から地下鉄東山線で「藤が丘」駅まで25分、地下鉄東山線「藤が丘」駅から名鉄バスで約15分

*詳細はホームページをご確認ください。

[お問い合わせ先]

愛知医科大学看護学部教学課大学院係

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
 TEL: 0561-62-3311(代表) 〈直通〉TEL: 0561-61-1827 FAX: 0561-63-1093
 E-mail: gakumu@aichi-med-u.ac.jp
 URL: <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>



財団法人大学基準協会
 「大学基準適合認定」